

## 町史

## とっておきの話

216

南相馬市博物館学芸員

稲葉 修

## 只見とっておきの魚たち ⑥

只見の川・魚・

そして人

川にいる魚たちは、エサとなる川底の水生昆虫や川の周りの森にすむ虫、生活の場である川の中の瀬や淵などの環境に支えられて生きています。魚を放流しなくても、山・森・川の環境のバランスが保たれていれば、魚は増えていくと思います。逆に、いくら水が流れていても、山にブナなどの自然林が残っていない限り、魚の生活にはマイナスとなるでしょう。春先の雪融け水も川の生き物にとって重要です。増水は川の中を変化させ、新たな魚の隠れ場をつくったりするなど、河川環境をリフレッシュします。

只見町は、山にはブナの森が広がり、川辺には貴重なユビソヤナギが自生し、魚のエサとなる昆虫をはじめ、たくさん植物や動物が生活できる多様な環境があります。その森や川には、豊かな恵みを求めて人々も集います。これは、おじいちゃんやおばあちゃん、そのまたおじいちゃんやおばあちゃん、それより、ずっとずっと昔の代から、代々受け継がれ守られてきた町の宝物です。そんなすばらしい自然が、只見町には残っているのです。

昨年7月の集中豪雨による被害は、尊い命や大切なものをたくさん奪ってしまいました。しかし、町の人々は、ずっと昔から、自然の猛威にさらされることはあっても、ブナの森や川から命の恵みを授かりながら豊かに暮らしてきました。洪水により、只見町内の川は、大きく様子が変わってしまったところもあります。時間がかけてもとの自然に戻っていくと思います。

今、只見町の水辺にはいくつもの問題があります。そのひとつが田子倉湖に放流されてしまったブラックバスなどの外来種です。興味のある人は釣ってみてもいいと思います。実際に自分の目で確かめることで、たくさん発見があるでしょう。田子倉湖では何を食べているのか、なぜアメリカの魚が放流されたのか調べてみてください。そして、外来種と在来種の関係から、未来の町の川がどうなっていくのか考えてみてください。

只見町の川は、観光に訪れる人たちの遊び場ではありません。先祖代々、受け継がれてきた町の財産であり、みなさんの文化だと思っています。それは、只見町の子どもの遊び場であり、教育の場であり、町の活性化への大きなヒントを持つ宝箱です。将来、自然豊かな只見町にたくさん生き物博士や川の達人が増えることを期待しています。



森と川は只見の宝物